

風水害に備えて

👉 台風・集中豪雨などのとき、とるべき行動は…

- ラジオ・テレビなどで台風情報を注意深く聞く。
- 市や消防団、警察などの広報をよく聞く。
- 近くに一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの世帯があれば、声をかける。
- 停電に備えて懐中電灯やトランジスタラジオの準備を。予備の電池も忘れずに。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備を。
- 外出から早く帰宅し、勤務先の家族に連絡をとり、非常時に備える。むやみに外へ出ない。
- 断水の恐れがあるので、飲料水を数日分確保しておく。また、食料品を数日分確保しておく。
- 浸水などの恐れがあるところでは、家財道具や食料品・衣類・寝具などの生活用品を高い場所へ移動する。
- 病人や乳幼児、身体の不自由な人などを安全な場所へ。
- 自主防災会の連絡を密に。役割を再確認する。
- 避難勧告が出たら指示に従って避難する。



👉 気象情報に注意し、被害が出ないように備えましょう

◎風と被害

平均風速(毎秒)	予報用語	想定される被害
10m~15m	やや強い風	風に向かって歩きにくい。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛ぶ。
15m~20m	強い風	風に向かって歩けない。ビニールハウスが壊れる。
20m~25m	非常に強い風(暴風)	しっかり身体を確保しないと転ぶ。飛来物でガラスが割れる。
25m~30m	非常に激しい風	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れ始める。
30m~	猛烈な風	屋根が飛ばされる。木造住宅の全壊が始まる。

※気象庁による

◎台風の大きさと階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

※気象庁による

◎台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上~44m/s未満
非常に強い	44m/s以上~54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

※気象庁による

◎一時間の雨量と降り方

一時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ	想定される被害
10~20ミリ	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。長く降り続く時は注意が必要。
20~30ミリ	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。側溝や下水、小川があふれ、小規模のがけ崩れが起こる。
30~50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川ようになる。山崩れやがけ崩れが起きやすくなる。危険地帯では避難の準備が必要。
50~80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	視界が悪くなり車の運転は危険。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。
80ミリ以上	猛烈な雨	息苦しくなるような、圧迫感がある。恐怖を感じる。	大規模な災害が発生する恐れが強い。厳重な警戒が必要。

※気象庁による

り災証明書について(台風・地震・風水害等)

り災証明書とは、台風・地震・風水害等の自然災害によって生じた被害を証明します。

証明書の交付手順

- ① 総務課または各出張所で「り災証明願」を収受
 - ② 「り災証明願」に必要事項記入後、総務課へ被害箇所部分の写真を添付して提出
 - ③ 総務課行政・財務班が確認後、市民生活課窓口へ提出し「り災証明書」を受領(手数料300円)
- 担当窓口/総務課 行政・財務班 ☎82-4111 内線 242・247